

ヒラフスベを食す

藤田 正子

アイカワタケかヒラフスベか？

そろそろ夏のきのこが出始めるころと期待して2010年5月23日に坂田ヶ池に夫と出かけた。クヌギ・コナラなど広葉樹の林床は春の花も終わって緑一色。さすがにきのこにはちと早いかとホトトギスやキビタキの声を楽しんでいると、夫があれあれと何やら倒木に着いた黄色い物体を指差している。鳥を探していた双眼鏡をそちらに向けてピントを合わせると、どうやら「堅いきのこ」のようだ。それにしてもきれいな黄色なので、とりあえず採集してみることにした。

手で触れると思いのほか柔らかくふっくらとして色はオレンジ色がかったところもあり、夕張のメロンパンみたいだ。確か、マスタケの若いものはこんな感じと、以前写真で見た覚えがあるが、それは私の郷里、群馬県北部などの亜高山帯で名人が山奥に入って採ってくるような珍品で、暖地の千葉にあるとは思えない。

家に持ち帰って図鑑やネット検索で調べたところ、マスタケと同じアイカワタケ属であることは間違いなさらしい。となると、残るはアイカワタケかヒラフスベか？ 『日本のきのこ』によれば、アイカワタケなら「肉質で食用になる」そうだが、ヒラフスベには可食のマークなし。ただし、ネット上にはDNA鑑定の結果、両種は同一種という記述も見られた。

万が一マスタケなら千載一遇のチャンス
翌日、ここから先は吹春先生にお願いしよ



確か、マスタケの若いものはこんな感じ

うと、まずは写真を添付してメールで問い合わせた。丁寧な返信を読むと、やはり現在のDNA鑑定では、アイカワタケとヒラフスベは一緒のきのここと判明しているという。管口がないところを見るとヒラフスベのようだが、なんとマスタケの可能性もないわけではないらしい。先生の解説には「針葉樹型：裏は黄色（yellow pore type）、表はオレンジ、フルーツのような匂い。千葉のモミにはこのタイプがでる。冷温帯域～北方林」とあり、かすかに期待が膨らんだ。あの倒木が何かまでは確認しなかったが、広葉樹がほとんどの林にモミがあったとは思えない。しかし、万が一マスタケなら千載一遇のチャンスだ。何しろ、マスタケ自体が滅多にお目にかかれないだろうに、若い時期の食べごろのものに出合うチャンスなんて、この先そうそうあるとは思えない。

そこで博物館に持ち込み、吹春先生に実際に見ていただいた。一目ご覧になった先生は「ああ、ヒラフスベですね」というので、期

待が一気に萎む。でも、アイカワタケ属を見分ける勉強にはなったので、いずれマスタケに巡り合う機会に期待しようと気を取り直していると、「ヒラフスベはアイカワタケと同じで食べられるわけですから、ぜひ食べてレポートしてくださいよ」と先生。え〜、ヒラフスベは可食のマークなしで美味しいとは思えないし、アイカワタケには「生食すると中毒する」とあるし……。でもまあ、熱をよく通して味見くらいならしてもいいかと思い、持ち帰った。

「ぜひ食べてレポートしてください」との依頼に応じ調理して食す

その夜、1個のヒラフスベを横に3枚にスライスし、オリーブオイルを使って焼いてみた。火が通るにつれて、黄色から徐々にオレンジ色に変わってくる。マスタケの鱈の色というのもこんな色かと想像する。十分加熱できたところで1片を取り出し、口に運ぶと香ばしい匂いがし、味はしいたけをまるやかにした感じだった。全く期待していなかっただけに我が舌を疑う美味しさに驚いた。家族にも1片ずつ味見をしてもらおうと、2人とも「美味しいね」という評価。ただ、多食はしない方が賢明と考え、この夜はここまでにした。

翌朝、私を含め3人とも異変がなかったことを確認したので、残っていた3個を料理してみることにした。加熱したときのオレンジ色が美しいので、冷蔵庫にあった緑の野菜スティック・セニョールと取り合わせ、ベーコンを加えてオリーブオイルで炒めることにした。調理中に台所に入って来た娘が「汗臭いような、アンモニアみたいな変な匂いがするね」というので、それが中毒の原因物質かもしれないと思い、まんべんなく火を通した。味付けは、このきのこの微かな香りや味を殺さぬようにハーブ塩だけにして食卓に載せた。肉厚でしっかりとした噛み応えがあり、エリンギのようにツルツルした感じのところで、



焼くと徐々にオレンジ色に変わってくる



冷蔵庫にあった緑の野菜スティック・セニョールと取り合わせ、ベーコンを加えてオリーブオイルで炒める

マッシュマロのようにふわふわした食感の部分とがあり、いかにもきのこらしい味わいを楽しんだ。

食べた量は計らなかったが、ひとり分としてはせいぜい片手に収まる程度であったと思う。その結果、家族5人で食べて4人は何の異常も現れなかったが、息子だけは食べてから30分くらいで便意を催した。下痢ほどではないにせよ朝から2度目のトイレに通い、その後は平常どおりに過ごしたようだ。息子はきのこに過敏な体質らしく、ハタケシメジなど他は皆平気なのにひとりだけお腹を壊すということがあり、この場合も心理的な作用もあるのではとも思われるが、同じような体質の方は注意を要するかも知れない。